

礼文高校の取組

●平成25年度(研究1年目・準備年度)の実践研究

【コミュニケーション英語Ⅰ】

☆ 準備として6時間、配信(釧路湖陵高校 ⇄ 礼文高校)

・当初、感じた課題 画面を通して生徒の表情を読み取るのが難しい。

演習問題を解いている時の個別指導が難しい。

礼文高校の取組

●平成25年度(研究1年目・準備年度)の実践研究

【コミュニケーション英語Ⅰ】

☆ 準備として6時間、配信(釧路湖陵高校 ⇄ 礼文高校)

・成果 生徒 習熟度の取組により、学力向上の成果が見られる。
教員 教科担当が一人しかいない中、よい研修になっている。

礼文高校の取組

●平成25年度(研究1年目・準備年度)の実践研究

【書道 I】

☆ 準備として4時間、配信(有朋高校 ⇄ 礼文高校)

・当初、感じた課題 一人ひとりの学習状況の把握が難しい。

授業時間中の生徒の作品の適正な評価が難しい。

礼文高校の取組

●平成25年度(研究1年目・準備年度)の実践研究

【書道Ⅰ】

☆ 準備として4時間、配信(有朋高校 ⇄ 礼文高校)

- ・成果 生徒 大きな映像で範書を見ることができ、運筆等を具体的に見やすい。
- 教員 教科担当が一人しかいない中、よい研修になっている。

これまでの実践から(課題の整理)

1 発問・活動の指示

- ・指示の明確化の工夫
- ・配信者と受信者の事前調整として発問・指示等を検討しておくことが必要
- ・机間巡視の工夫
- ・学習経過、生徒の理解度のチェック等の連携の工夫
- ・グループ学習、調べ学習、討論型授業の検討

これまでの実践から(課題の整理)

2 板書・IT機器の活用

- ・板書文字の大きさ、色使いの工夫
- ・配信者、受信補助者の効果的な立ち位置の研究
- ・マイク、カメラ等の組合せの工夫
- ・生徒の発言に対する対応方法の統一あるいは記号化
- ・機器不調時の対応(停電等への対応などの危機管理)

これまでの実践から(課題の整理)

3 教材の提示

- ・PC教材、ICTを活用した教材の創意工夫
- ・プリント等の配布の教員同士のタイミング合わせ
- ・遠隔面接に適した教材や授業形式の工夫
- ・机の配置など、環境整備の工夫

これまでの実践から(課題の整理)

4 学習成果の把握

- ・面接中の生徒の活動状況の把握方法の工夫
- ・活動のチェックリストの作成や表か場面の設定の工夫
- ・生徒個々の理解や作業等の進捗状況の把握の工夫
- ・実験・実習の活動の遠隔面接として実施することの是非の検討
- ・試験問題の工夫
- ・教材の評価

通信制高校における遠隔教育の可能性

I 面接の配信による可能性

添削担当教諭が面接を配信することによって、報告課題(レポート)による自学自習との関連を深めることができる面接指導が期待でき、直接対面面接と同等の、場合によってはそれ以上の効果を生み出すことが可能ではないか。

(例)レポートの添削者と対面することによって、互いの意思疎通が図られ、効果的なレポート添削となり、内容の濃い自学自習が可能

・遠隔面接によって「顔の見える添削」が可能となる。

通信制高校における遠隔教育の可能性

Ⅱ 新たな科目を設置し、単位認定することによる可能性

小規模な通信教育協力校での面接指導講師の免許に基づく設置科目の他に、当該校に在籍する面接指導講師が所有している免許に基づく科目以外の科目を遠隔面接による科目として新たに設置することによって、生徒の学習ニーズに対応した、少しでも幅の広い科目を設置することができ、当該協力校の面接指導講師による設置科目可能数を越えた、いわば「ワイドカリキュラム」の編成が可能となる。

・「ワイドカリキュラム」による小規模な協力校支援の充実が可能となる。